

講師 矢野 繁樹



種目等 パラ陸上（視覚障がい）

【主な経歴・出場記録等】

- 松山市出身
- 1996年アトランタパラリンピック
(T13クラス：陸上100m・5位入賞、200m・4位入賞)
- 2000年シドニーパラリンピック
(T12クラス：陸上100m、200m、4×100m R・銀メダル)
- 2004年アテネパラリンピック
(T11クラス：陸上100m・8位入賞、200m)

【オリパラ教育実績】

- 2018年度 今治市立北郷中学校
- 2019年度 八幡浜市立松柏中学校
- 2020年度 上島町立弓削中学校
松山市立桑原中学校
- 2021年度 東温市立川上小学校
宇和島市立津島中学校

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（視覚障害についてやパラリンピックについてなど）
- 伴走者：瀧本啓太のお話（都合が合えばお二人での招聘可）
- 模範演技（矢野、瀧本による伴走実施）
- 児童生徒への体験（児童生徒同士の伴走体験）

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 様々なことを乗り越えて三度のパラリンピックに出場されたことはとてもすごいと思った。獲得されたメダルも見せていただくという貴重な体験もさせていただいた。今回の講演会を通して、人を信頼することの大切さを学ぶことができた。
(八幡浜市立松柏中学校生徒)
- 『障がいとは人と人の間にある』という言葉が心に残った。人は誰との間にも障がいがあり、それを埋める、つまり理解し合うことで障がいはなくなる。この言葉は多文化共生社会に最も必要なものだと感じた。
(松山市立桑原中学校生徒)
- 実際にゴーグルをして体験したが、前に進むのが怖かったし、友達の伴走があっても不安だった。伴走者の方を信じて走りきることはすごいなと思った。
(宇和島市立津島中学校生徒)
- パラリンピアン講演会を通して、インクルーシブな社会の実現に向けて、自分たちにできることを考えることができた。
(上島町立弓削中学校教員)

一口メモ

陸上（視覚障がい）のクラス分けと競技スタイルはこうなるけん！

T11	伴走者必要
T12	伴走者は必要な場合のみ
T13	単独



【実践事例】 上島町立弓削中学校 (2020年度実施)

【実践テーマ】

スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

1年生（20名）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、全校生徒対象から1年生のみに変更

【実施方法】

授業（保健体育、総合的な学習の時間、学級活動）

【目標（ねらい）】

- ・パラスポーツ体験を通して、平等に競技できる制度や工夫を学ぶことで、スポーツを通じてインクルーシブな社会を創造していこうとする態度を養う。
- ・オリンピック・パラリンピック教育を通して、障がい者に対する理解を深めるとともに、差別や偏見のない社会を実現しようとする態度を養う。
- ・オリンピック・パラリンピック教育を通して、2021年に開催の東京大会への関心を高める。

【取組内容】

（1）事前学習① 11月9日（月）

授業名 「パラリンピックってなんだろう？」
 教 材 国際パラリンピック委員会認定教材「I'm POSSIBLE」
 授 業 保健体育1時間（体育館）

（2）事前学習② 11月12日（木）

授業名 「パラリンピックスポーツについて学ぼう」
 教 材 国際パラリンピック委員会認定教材「I'm POSSIBLE」
 授 業 保健体育1時間（体育館）

（3）事前学習③ 11月13日（金）～12月3日（木）

授業名 「ボッチャをやってみよう」
 教 材 「かんたん！ボッチャガイド」
 （公益財団法人日本パラスポーツ協会）
 授 業 保健体育5時間（体育館）



(4) オリンピック・パラリンピック教育講演会 12月4日(金)

演 題 「パラ陸上に学ぶ」

講 師 矢野 繁樹、瀧本 啓太

授 業 総合的な学習の時間2時間(体育館)

13:00 開会(進行:教頭、講師紹介:校長)

13:05 講演、質疑応答

14:05 休憩

14:20 体験活動

14:50 閉会(進行:教頭、生徒代表お礼の言葉、写真撮影)



(5) 事後学習 12月14日(月)

授業名 「講演会を振り返って」

授 業 学級活動1時間(教室)

【主な成果】

- パラスポーツ(陸上)を通して、障がい者理解やパラリンピックの意義について考えを深めることができた。
- 学校生活や地域における、差別や偏見をなくしていこうとする意欲を高めることができた。
- 生徒は、オリンピック種目に注目が行きがちであったが、パラリンピアンへのスポーツに対する思いや今までの経験から得た人生観を聞くことで、パラスポーツへの関心を高めることができた。

【工夫した点】

- テーマを「パラスポーツを通じた障がい者理解」とし、人権・同和教育や特別の教科道徳などに関連させながら実施した。双方で、障がい者に対する理解を深め、知識や考え、思いを統合していくことで、インクルーシブな社会の実現、共生社会などについて、より深い学びを生徒は得ることができたと思う。
- 保健体育でのボッチャ体験について、歴史やルールの理解はもちろんであるが、動画投稿サイトなどを活用することで、実際の試合映像を視聴したり、ボッチャの競技性の深さについて学んだりすることができた。

講師 土佐 礼子

※現姓：村井 礼子



種目等 陸上（マラソン）

【主な経歴・出場記録等】

- 松山市出身
- 2001年エドモントン世界陸上銀メダル
- 2004年アテネオリンピック5位入賞
- 2007年大阪世界陸上銅メダル
- 2008年北京オリンピック出場



【オリパラ教育実績】

- 2019年度 四国中央市立豊岡小学校
東温市立西谷小学校
- 2020年度 八幡浜市立江戸岡小学校
県立みなら特別支援学校
- 2021年度 東温市立北吉井幼稚園



【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（自身の経験、オリンピックについてなど）
- 児童生徒への指導（準備運動、走り方、マラソン大会への参加など）

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 講師の話聞いて印象に残った言葉は、「プレッシャーがうれしい」という言葉。不安があってもみんなの期待に応えたいという思いが強かったと話された。私はプレッシャーに負けそうなときに、この言葉を思い出して、何事も楽しみながらやっていきたい。そして、東京オリンピックが開催されたら、日本選手を応援したいなと思った。
(八幡浜市立江戸岡小学校児童)
- 夢や目標をもって地道に努力を続けることの大切さを強調して語ってくださったことで、目標や努力の大切さを学ぶことができ、ねらいとしていた主体性や向上心を育てることにつながった。実技で準備運動の仕方や動きづくりなどを教わり、以後の体育学習に動きを一部、取り入れて継続したことによって、学んだことを効果的に生かすことができた。
(四国中央市立豊岡小学校教員)
- マラソン大会に意欲的に取り組むことができた。ほとんどの児童が練習タイムを上回る記録で走りきることができた。走り終わった後も、「土佐さんが一緒に走ってくれたので、マラソンがとても楽しかった」と発言する児童もいた。
(東温市立西谷小学校教員)
- オリンピック・パラリンピックを身近に感じることができ、園児からは「出たい」などの声も聞かれた。
(東温市立北吉井幼稚園教員)

【実践事例】 東温市立西谷小学校（2019年度実施）

【実践テーマ】

スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

全校児童（47名）、保護者及び地域の方（17名）

【実施方法】

行事（校内マラソン大会、講演会）

【目標（ねらい）】

オリンピックとのふれあいにより、スポーツの意義や価値に対する理解を深め、関心を高めるとともに、スポーツに主体的に取り組む意欲を高め、これからの社会に求められる資質、能力等の育成を図る。

【取組内容】

（1）事前学習

校内テレビ放送を活用して、愛媛の誇るオリンピックに関する動画を放映し、講師やオリンピック、マラソンについて知る。

（2）マラソン大会 12月5日（木）10：25～11：20

校内マラソン大会に講師をゲストランナーとしてお招きし、全レース（低・中・高）を子どもたちと一緒に走行。

走りながら声を掛け、励まし、気持ちを盛り上げていただき、子どもたちは最高の笑顔でゴールすることができた。



（3）講演会 12月5日（木）11：30～12：15

マラソン大会後に、「マラソンが教えてくれたこと」と題して講演会を行った。講師の歩んできた陸上生活を写真や動画を用いて分かりやすく話していただき、児童は興味深く聴き入っていた。

（4）事後学習

お礼の手紙を送り、学んだことや感謝の気持ちを伝えた。

【主な成果】

- オリンピック・パラリンピック、マラソンに興味をもつ児童が多くなった。オリンピック・パラリンピックが東京で開かれることを知っているものの、「あまり自分たちには直接関係がない」といった考えをもっている児童が多くいた。しかし、今回の講演会等をきっかけにオリンピック・パラリンピックをより身近に感じ、「生でオリンピック・パラリンピックを見てみたい」（高学年）と発言する児童も出てきた。
- 講演会を通して、最後まであきらめず、粘り強く取り組むことの大切さを学ぶことができた。講師のマラソンに対する取り組みや考え方を知ること、「自分も苦手なことやしんどいことあっても、逃げずにふんばりたい」と多くの児童が振り返っていた。

【工夫した点】

小規模校の利点を生かして、全ての学年の児童と一緒に走っていただくなど、全校児童ができる限り講師とふれ合えるようにしたこと。

【課題など】

マラソン大会以前に走り方の実技指導等をお願いすることができれば、よりよい取り組みになったと考える。

一口メモ

四国中央市立豊岡小学校では、毎朝全校で朝マラソンをする取り組みをしているから、陸上のオリンピックを講師にお招きしたんよ。講演前には各学級を訪問してくれたけん！



八幡浜市立江戸岡小学校の実技指導では、走る際に肩甲骨を使うことの大切さと上手く使えるようにするためのウォーミングアップの仕方を教えてもらったけん！





種目等 **パラ陸上（車いす）**

【主な経歴・出場記録等】

- 松野町出身
- 2012年ロンドンパラリンピック
(T51クラス：陸上100m・8位入賞)
- 車いす陸上T51クラス日本記録保持
(陸上400m、800m、1500m、5000m、
車いすマラソン)

【オリパラ教育実績】

- 2018年度 上島町立岩城中学校
- 2019年度 大洲市立粟津小学校
四国中央市立川之江北中学校
- 2020年度 八幡浜市立真穴中学校

一口メモ

障がい者陸上のクラス分けは、アルファベットと数字で表現されていて、車いす陸上のクラス分けは簡単にまとめるとこうなるけん！

重度 ↑ 軽度	T51	肩を動かす・肘を曲げる・手関節を手の甲側に持ち上げるのみ可能。 座ってバランスが取れない。
	T52	肩・肘・手関節の機能はほぼ正常。指の曲げ伸ばしが難しい。 座ってバランスが取れない。
	T53	肩・肘・手の機能はほぼ正常。 座ってバランスが取れない。
	T54	肩・肘・手の機能は正常で、体幹の機能が部分的～正常に動く。

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（普段の生活の様子やパラ陸上車いすの障害区分についてなど）
- 児童生徒への体験（自身の競技用車いす、ローラー台を持参）
※事前に講師との調整が必要



【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- パラリンピックに出場した井上選手から、車いすレースとの出会いや多くの人に支えられてきたことに対する感謝の気持ち等、貴重なお話を聞くことができたこと、さらに、車いすレーサー体験をすることにより、興味・関心をもつ生徒が増えた。
(四国中央市川之江北中学校教員)
- 講師が県内出身のアスリートであることで、生徒たちは親近感を感じていた様子であった。講演前は「障がい者は社会的に弱者である」といったイメージが強い生徒が大勢いた。しかし、自らの境遇を受け入れ、前向きに工夫しながら生活し、競技に挑戦するアスリートの姿を目の当たりにし、イメージが変化した。また、自らの生活や取組を見直すきっかけをつかむことができた。
(八幡浜市立真穴中学校教員)

【実践事例】大洲市立栗津小学校（2019年度実施）

【実践テーマ】

スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

全校児童（74名）

【実施方法】

- 授業（道徳、特活）
- 行事（講演会）

【目標（ねらい）】

- オリンピック・パラリンピックに興味関心を持ち、東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げようとする児童を育成する。
- オリンピック・パラリンピックの競技や内容、理念等を理解する。
- パラリンピアンとの交流を通して、障がいのある人々への理解を深める。

【取組内容】

（1）秋季大運動会「オリンピック音頭の活用」9月15日（日）

秋季大運動会において、種目の入場曲に「オリンピック音頭」をかけ、オリパラ推進校になっていることをアナウンス。

（2）全校集会「オリパラブックトーク」10月30日（水）

- 図書委員会が全校児童を対象に実施
- オリンピック・パラリンピックの種目や注目選手を紹介
- ブックトーク後、オリパラに関する図書を「オリパラコーナー」として、校舎内に配置

（3）道徳・学活・外国語活動において、オリパラやスポーツに関する学習を実施

9月19日（木）～11月21日（木）

- 2年道徳「ひろいせかいのたくさんのひとびとと」
- 4年道徳「いつかにじをかける ～高橋尚子選手の走ってきた道」
- 5年道徳「いつも全力で ～首位打者イチロー」
- 6年外国語「What do you want to watch? ～オリパラで見たい競技について話し合おう」

(4)「オリパラ教育講演会」 12月4日(水)

講師 井上 聡

対象 全校児童

①事前学習

パラリンピック及び講師について学習

DVD「オリパラに関する指導参考映像資料」視聴

②当日

13:30 開会(進行:教頭、講師紹介:校長)

13:35 講演、質疑応答

14:10 休憩、準備

14:25 競技用車いすの実演、体験

14:45 閉会(進行:教頭、児童代表お礼の言葉、写真撮影)

③事後学習

お礼のメッセージや、東京パラリンピック予選に出場する講師への応援メッセージを届ける。



【主な成果】

- オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めることができた。「パラリンピックを見てみたい」「東京オリパラをぜひ見たい」という児童の声が多く聞かれた。
- 高学年においては、オリンピック・パラリンピックやその歴史等について理解を深めることができた。
- 講師との交流を通して、夢や目標を持つことの大切さを感じ取った児童が多くいた。また、障がいのある方が、様々な工夫をしながら生活をされていることを理解することができた。講演会の感想発表では、多くの児童が発表しようとするなど、講師の生き方に感動することができた。
- 講師にメッセージを書くことで、だれかを応援することの意義や楽しさを感じることができた。

【工夫した点】

- どのようにすれば、全学年が関わることができるか検討し、学年ごとの取組を行った。
- 「オリパラ教育講演会」において、話を聞くだけでなく、体験型の講演会にさせていただきよう、オリパラ推進室の方としっかりと打合せをした。
- メインの活動である「オリパラ教育講演会」の事前学習を充実させた。



講師 ^{さ い き} 佐伯 ^{み か} 美香 ※現姓：^{ふくい} 福井 ^{み か} 美香



種目等 バレーボール・ビーチバレーボール

【主な経歴・出場記録等】

- 松山市出身
- 1996年アトランタオリンピック出場（バレーボール）
- 2000年シドニーオリンピック4位入賞（ビーチバレーボール）
- 2008年北京オリンピック出場（ビーチバレーボール）

【オリパラ教育実績】

- 2019年度 西条市立河北中学校
県立新居浜東高等学校

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（オリンピックでの経験、夢をかなえることについてなど）
- 児童生徒への指導（準備運動、バレーの基礎動作など）



【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 目標をもって取り組むことの大切さや、感謝の気持ちをもって行動することの大切さ等、物事に取り組む意欲的な姿勢を学ぶことができた。
(西条市立河北中学校教員)
- 地元出身の選手に講演を依頼したことで、世界の舞台に挑戦することが、単なる憧れではなく、実現可能な目標として捉え、具体的な行動へ移そうとする意志に結び付いたと思われる。
(西条市立河北中学校教員)
- 講演内容がスポーツにどのように取り組むべきかという内容だったので、運動部活動生徒には目的意識や目標を持つことの動機付けになった。運動部活動生徒にとって、オリンピック選手の話は自分の競技種目につながる部分が多く、講演後の部活動が非常に活性化した。
(県立新居浜東高等学校教員)

【実践事例】 県立新居浜東高等学校（2019年度実施）

【実践テーマ】

スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

健康・スポーツコース生徒（67名）

【実施方法】

行事（講演会）

【目標（ねらい）】

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの機運を醸成するとともに、理念の普及・浸透を通じて、スポーツの価値の理解を深める。
- アトランタ・シドニー・北京と3度のオリンピックに出場し、様々な国際大会で優秀な成績を収めている講師を招聘して、自身の体験や競技人生における喜びや苦労などを講演していただき人間形成に役立てるとともに、実技指導からオリンピック選手の高い技術を学ぶ。

【取組内容】

（1）事前学習

- ①2020東京オリンピックの取り組みについて
オリンピックの実施種目
オリンピックを支える取り組み
- ②講師の競技実績等

（2）オリンピック・パラリンピック教育講演会 12月17日（火）

講師 佐伯 美香

演題 「夢をあきらめない！」

13：50 開会

講演、質疑応答

14：40 休憩

14：50 実技指導（～ 15：30）



(3) 事後学習

- オリンピックの意義や経済効果などについて
- スポーツがその人自身や社会に及ぼす影響
- フェアプレイの精神について
- ドーピングについて
- 共生社会実現に向けての意識

【主な成果】

- オリンピック選手から講演、実技指導をしてもらうことで、高校生からは遠い存在であるオリンピックを身近に感じることができた。
- パラリンピックで行われる種目を体験したいという生徒が多数でできた。

【工夫した点】

- 講師の実績が周知徹底できるよう事前指導を行った。
- オリンピック、パラリンピックの意義について授業を使い説明した。
- 東京オリンピックで実施される種目について説明した。

【課題など】

- 今年度は校内の行事もたくさんあり、日程調整に苦労した。
- 講演と実技を2時間で実施するのは時間的に厳しいものがある。どちらかに絞れば良かった。

一口メモ

西条市立河北中学校でもオリパラ教育を実施したけん！
事前学習として保健体育科でバレーボールの授業を行い、後日、講師から自身の過去の経験やオリンピック出場時のエピソード等の講演をいただいたよ。



講師 武田 大作



種目等 ボート

【主な経歴・出場記録等】

- 伊予市出身
- 1996年アトランタオリンピック出場
- 2000年シドニーオリンピック6位入賞
- 2004年アテネオリンピック6位入賞
- 2008年北京オリンピック出場
- 2012年ロンドンオリンピック出場

【オリパラ教育実績】

- 2019年度 松山市立勝山中学校
- 2020年度 松山市立八坂小学校

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（自身の経験、5度のオリンピック出場で得たものなど）
- 児童生徒への指導（準備運動、体幹の鍛え方や正しい姿勢など）



一口メモ

武田さんはオリンピックに5回出場という輝かしい記録を持っているけど、世界最多は10回出場のカナダの馬術選手なんよ！

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- オリンピアンから話を聞いたことは、児童にとって大変貴重な経験となった。オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まったとともに、自分の姿勢や体力を見直し、よりよい体づくりをしていこうという考えや、目標をもって努力を重ねていこうとする気持ちをもつことができた。
(松山市立八坂小学校教員)
- 地元出身オリンピック武田大作選手の講演とパラリンピアン香西宏昭選手の映像を見聞きすることで、いずれも強い意志と希望をもって取り組んできたことや覚悟、情熱など、こみ上げてくる熱い思いを体感できた。そのことにより、現在中学生の自分と両アスリートに共通点があることに気付き、これからのスポーツライフをより充実させようとしたり、競技者として自分自身を磨いていこうとしたりする気概ができた。
(松山市立勝山中学校教員)

【実践事例】松山市立八坂小学校（2020年度実施）

【実践テーマ】

スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

- ・授業：4年生（21名）、5年生（22名）
- ・行事：全校児童（131名）

【実施方法】

- ・授業（総合的な学習の時間・外国語科・図画工作科）
- ・行事（全校集会：もうすぐオリパラ！ようこそ八坂小集会）

【目標（ねらい）】

- ・調べ学習やオリンピックの講演を通して、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めるとともに、スポーツの楽しさや健康管理の大切さに気付く。
- ・パラリンピック競技の体験活動を通して、スポーツの楽しさや難しさ、障がいがある人の生き方について知るとともに、学んだことを自分の生活に生かす。

【取組内容】

（1）「もうすぐオリパラ！ようこそ八坂小集会」 11月6日（金）10：50～12：20

講師 武田 大作

対象 全校児童



オリンピック5大会連続出場、日本ボート競技の第一人者を招き、全校集会を行った。講演では、正しい姿勢や体幹を鍛える簡単なトレーニング方法を実際に行いながら、アスリートとしての体と精神の作り方について教えていただいた。

（2）東京オリンピック・パラリンピックを応援しよう！

〈5年：総合的な学習の時間・外国語科・図画工作科・道徳〉

オリンピック・パラリンピックについて、自分が興味のあることを課題に設定し、インターネットや図書資料を使って、調べ学習を行った。調べた内容を発表資料にまとめ、お互いに情報・感想交流を行った。

外国語「My Hero」の単元で、憧れのアスリートを紹介し合った。事前に調べたことを、学習した英単語を活用しながら英文にし、ALTに向けて発表した。

図画工作科では、憧れのアスリートの切り絵、オリンピックシンボルのちぎり絵を制作した。発表資料や作品は、オリンピックやパラリンピックについてあまり知らない下学年にも興味をもってもらえるように、校内に掲示した。



道徳の時間では、「悲願の金メダル」の題材を通して、女子ソフトボール日本代表選手や選手を支えた人々の思いに迫った。



(3) 障がいをもつ方から学ぼう

〈4年：総合的な学習の時間〉

みんなにやさしい街づくりをテーマに学習を進めていく中で、パラスポーツであるゴールボールを体験し、視覚障がいのある人の立場になって考える活動を取り入れた。



【主な成果】

- 憧れのアスリートについて調べる中で、その人や競技の魅力に改めて気づき、将来の夢や未来の自分の姿を思い描くことにつながった。
- ゴールボールを体験したことで、パラスポーツに対する興味・関心が高まったとともに、様々な人の立場に立って物事を見つめたり、自分自身や周りの人のためにできることは何かを考えたりと、共生社会をつくっていく一員としての気持ちが芽生えてきた。

【工夫した点】

- 総合的な学習の時間をベースに、様々な教科の学習と関連付けて行ったことで、オリパラ教育のねらいに迫る活動につながった。特に表現活動や体験活動を取り入れたことは、児童の興味・関心を向上させた。
- 小規模校のよさを生かし、全校児童がオリンピックの講演を聞くことができた。また、昼休みには自由に会話を楽しむなど触れ合いの時間を設定し、アスリートと間近に関わる経験を味わわせた。



講師 愛媛車いすバスケットボールクラブ

種目等 車いすバスケットボール



【主な経歴・出場記録等】

- 松山市、今治市で活動中
- 愛媛県で唯一の車いすバスケットボールチーム
- 2017年愛顔^{えがお}つなぐえひめ大会4位入賞

【オリパラ教育実績】

- 2019年度 宇和島市立三間中学校
県立宇和特別支援学校
- 2020年度 西条市立周布小学校
- 2021年度 西条市立三芳小学校
鬼北町立好藤小学校

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（障がいについて、障がい者スポーツに取り組んできての経験など）
- 車いすバスケットの模範演技
- 児童生徒への体験（競技用車いすを使っでの車いすバスケット体験など）
※事前に講師との調整が必要



★実施内容や参加者数により、2～4名程度の講師で対応

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 支える側と支えられる側は一方通行ではなく、立場が反対になることも普通にあることを発見した。
(宇和島市立三間中学校生徒)
- スポーツ競技を通して、障がいがあっても生き生きとしている様子を見せていただいた。障がいのある人との肯定的な出会いは子どもたちにとってよい経験となった。
(西条市立周布小学校教員)
- 障がい者スポーツについて話していただいたり、迫力あるプレイを見たり体験させていただいたりすることで、スポーツの魅力を体感でき、障がい者スポーツやスポーツそのものに興味を持つきっかけとなった。
(宇和特別支援学校教員)

【実践事例】西条市立周布小学校（2020年度実施）

【実践テーマ】

スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

- ボッチャ体験：全校児童
- ゴールボールの体験：3～6年生（107名）
- オリンピック・パラリンピック教育講演：3～4年生（53名）

【実施方法】

授業（体育）

【目標（ねらい）】

- パラスポーツを通して共生社会について考え、理解することができる。
- オリンピック・パラリンピックの意義を理解し、スポーツを楽しむことができる。

【取組内容】

事前学習やパラスポーツの体験は、「I'm POSSIBLE」と「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」を活用して授業を進めた。

（1）事前学習

- パラリンピックってなんだろう？（I'm POSSIBLE 1-1）
- パラリンピックスポーツについて学ぼう（I'm POSSIBLE 2-1）
「I'm POSSIBLE」のスライドをもとに、クイズ形式で、パラリンピックの意義、パラスポーツの種目やルールについて学習した。

（2）ボッチャ体験

- ボッチャをやってみよう！（I'm POSSIBLE 2-4）
全校児童が体育科の学習の中で1～2時間程度、ボッチャの体験をした。ボッチャというスポーツを初めて体験する児童が多く、楽しく実践することができた。

（3）ゴールボール体験

- ゴールボールをやってみよう！（I'm POSSIBLE 2-3）
3～6学年の児童が体育科の学習の中で1単位時間、ゴールボールの体験をした。初めて体験する児童が多く、楽しく実践することができた。ボールが当たることに対する不安がある児童もいたため、「みんなが楽しめる」ことを目的に「浮かしたボールは投げない」などルールを工夫して行った。

(4) オリンピック・パラリンピック教育講演 2月22日(月)

講師 愛媛車いすバスケットボールクラブ

(國本 司、國本 紀子)

対象 講演(3, 4年生:53名)、体験活動(4年生:33名)

14:00 開会

講演、質疑応答

実技披露

14:35 休憩、準備

14:40 体験活動

15:15 閉会



(5) 事後学習

- 4年生は総合的な学習の時間「体の不自由な人の気持ちを考えよう」の学習につなげていく。
- 「I'm POSSIBLE」での、パラ陸上の伴走者の映像を見せた。競技をすることだけでなく、運動を見たり支えたり応援することが大切で、生涯にわたってスポーツに関わっていけるよう、これからの体育科の授業で運動を通して学んでいこうと児童に伝えた。

【主な成果】

- パラスポーツを通して共生社会について考えることができた。それぞれの学年が学年にあった事後学習につなげ、理解を深めた。
- オリンピック・パラリンピックの意義を知り、体育科の授業でのスポーツを、より楽しむ心情が芽生えた。

【工夫した点】

- パラスポーツの道具を2週間お借りして、体育科の学習の中で体験した。他の学年が続けて同じスポーツを実施できるようにしたことで、体育館の用具の準備やコートなどの準備を軽減することができた。
- I'm POSSIBLEのデータを活用し、本校の各クラスに設置されている電子黒板で大きく表示したり、映像も見せたりすることで、児童の関心を高めることができた。

【課題など】

- 他の教科と関連を図り、年間計画に位置付けるとより効果が期待できる。
- 系統的に学んだり、次学年とのつながりを持てるよう、学習内容の割り振りや時間配分などを検討する必要がある。



講師 県スポーツ専門員（競技力向上対策本部）

種目等 体操、サッカー、カヌー、陸上（ハードル）、ラグビーなど

【講師（オリパラ教育を実施した講師）】

- 大野 健志（おおの たけし）：体操
- 小浜 廣仁（こはま ひろひと）：体操
- 出口 諒財（でぐち りょうたか）：体操
- 上野 真実（うえの まみ）：サッカー
- 小松 正治（こまつ せいじ）：カヌー
- 多田羅 英花（たたら ひでか）：カヌー
- 野本 周成（のもと しゅうせい）：陸上・ハードル
- 前田 清治（まえだ せいじ）：ラグビー



【オリパラ教育実績】

- 2018年度 砥部町立麻生幼稚園（体操）
- 2019年度 西条市立ひまわり幼稚園（サッカー）
宇和島市立宇和津幼稚園（体操）
県立大洲高等学校（カヌー）
- 2020年度 伊方町立三机小学校（サッカー）
- 2021年度 大洲市立久米幼稚園（体操）
東温市立西谷小学校（ラグビー）
県立八幡浜高等学校（陸上）



【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（それぞれのスポーツについて、競技をやってきたうえでの経験など）
- 各競技の模範演技
- 児童生徒への体験（各競技やストレッチ等）



【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 体験後幼児たちは、園庭の鉄棒や雲梯に自分なりの目標を立て意欲的に挑戦し、できるようになるまで頑張る姿が見られた。また、できるようになったことを保護者にも見せて、喜びを共有する姿があった。
(宇和島市立宇和津幼稚園教員)

- トレーニング器具で実際にカヌーを漕いでいるのと似た条件の負荷をかけて一流選手と対戦し、モニターにレースの様子が映し出されることで、生徒全員が楽しむことができた。

(県立大洲高等学校教員)

【実践事例】 県立八幡浜高等学校（2021年度実施）

【実践テーマ】

スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

全校生徒（562名）

【実施方法】

行事（文化祭 文化講演会）

【目標（ねらい）】

- ・東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、スポーツ文化を育む。
- ・陸上110mハードルで東京オリンピック代表を目指した本校OBである講師（野本周成）を招聘して、自身の体験やオリンピックへの想いを講演していただき、スポーツへの意識の向上、生徒の人間形成を高める機会とする。

【取組内容】

※前年度、講師には、県のスポーツ専門員として体育の陸上の授業でハードルの指導をしていただいた。

（1）講演会前 11月2日（火）12：50～13：00

デモンストレーションとして、本校陸上部生徒と講師がハードリングの実演を行った。



(2) 講演会 11月2日（火）13：05～14：15

演題 「スポーツとは」～八幡浜から世界へ～

講師 野本 周成（陸上）

中野 敦之（県競技スポーツ課職員：八幡浜高校陸上部元顧問）



八幡浜高校出身の講師から、高校在学時から10年間の陸上生活の苦勞と楽しさを生徒たちに伝えてもらった。

たくさんの苦勞の中でも関わった方に支えられて「陸上を誰かのためにする」から「誰かのおかげで好きなものができる」と心情が変わり陸上人生の基点となったそうで、生徒たちは支えてくれる人たちがいるからこそ、好きなことができるということを改めて考えるキッカケになった。

【主な成果】

- オリンピック代表目前までいったトップアスリートの地元の先輩から話を聞いたことは、生徒にとって貴重な経験となった。高校時代の部活動の体験談から、生徒は身近に感じることができ、大きな目標をもって努力することの大切さを改めて知ることができた。
- 講師は、次回のパリオリンピックを目指し今後も活動していくことから、生徒の興味・関心・期待も高まっていくと思われる。

【工夫した点】

本校では陸上及び水泳で全国大会に数多くの選手が出場していることから、その競技に関連した講師を招聘することとし、地元出身で、オリンピックに関係した本校の卒業生を講師として招くことができた。

【課題など】

- 東京オリンピック・パラリンピックの開催が終わった後での実施であったので、オリンピック・パラリンピックに関しての生徒の興味・関心は低くなっていることが予想された。
- コロナ禍で年間を通して計画的な活動ができなかった。

一口メモ

県競技力向上対策本部では、優れた競技力を有する県スポーツ専門員による小・中・高等学校への学校訪問を行っとるんよ。講演や保健体育等の出前授業を通して、子どもたちが夢や希望、向上心を持つことができるよう活動内容を工夫して実施しよるけん。

学校訪問を希望する場合は、同本部事務局（県競技スポーツ課：☎089-947-5453）に連絡してね。



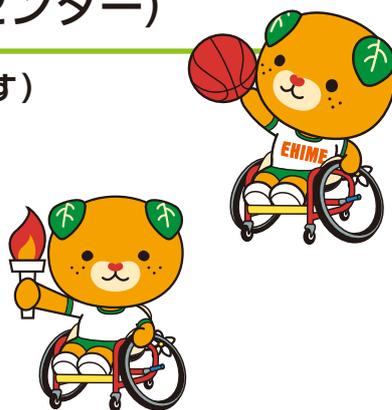
講師 あすチャレ！ School事業

(日本財団パラスポーツサポートセンター)

種目等 車いすバスケットボール、パラ陸上（車いす）

【講師（愛媛県で実施した講師）】

- 根木 慎志（ねぎ しんじ）：車いすバスケットボール
 - 神保 康広（じんぼ やすひろ）：車いすバスケットボール
 - 永尾 嘉章（ながお よしふみ）：車いす陸上
- ※講師は日本財団パラスポーツサポートセンターにより選定



【オリパラ教育実績】

- 2020年度 松山市立湯築小学校（車いすバスケットボール）
伊予市立北山崎小学校（車いすバスケットボール）
宇和島市立津島中学校（車いすバスケットボール）
- 2021年度 伊予市立北山崎小学校（車いすバスケットボール）
伊方町立三机小学校（車いす陸上）
新居浜市立角野小学校（車いすバスケットボール）
内子町立内子中学校（車いす陸上）

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（講師の過去の体験や学んできたことなど）
 - 模範演技（バスケットシュートやローラーを使ったレーサースピード測定など）
 - 児童生徒の体験（車いすを使ったリレー、鬼ごっこ、バスケットの試合など）
- ※プログラムの内容は予めある程度決まっている。

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- （講師の小学生の時の話を聞いて）
すごいと思った。苦手なこともできるようにしようと自信がついた。（伊予市立北山崎小学校児童）
- 何かに挑戦するのに年も性別も関係ないということを学んだ。自分の気持ちさえあれば、何にでも挑戦できるし、失敗も意味のある失敗になると思う。（宇和島市立津島中学校生徒）
- 児童一人一人がオリンピックやパラリンピックの意義や夢をもつことの大切さに対する理解を深めることができた。また、友達に対する思いやりをもつことを始め、多様な人と共生社会を築いていこうとする態度を養うことができた。その後の目が不自由な方との交流や高齢者体験などにも意欲的に取り組んだ。（松山市立湯築小学校教員）
- 車いすで生活することはどのようなバリアがあるのか考えることができ、共生社会のために、自分がこれから先、どのような生き方をしていけばよいのか考える生徒が多かった。（新居浜市立角野中学校教員）

※あすチャレ！ Schoolの活用については47ページの「日本財団パラスポーツサポートセンター」を参照

【実践事例】 内子町立内子中学校（2021年度実施）

【実践テーマ】

スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

3学年（66名）

【実施方法】

授業（保健体育科）

【目標（ねらい）】

オリンピック、パラリンピックを通してスポーツへの興味・関心を高めるとともに、パラスポーツを体験したり、パラリンピアンとの講話を聞いたりすることで、障がいのある方との共生について考えるきっかけとする。

【取組内容】

（1）事前学習

①オリンピック・パラリンピックについて

オリンピック、パラリンピックについて、知っていることや、テレビで見たときの感想発表をした。パラスポーツのルールや、誰もが楽しむことができる工夫について学習した。

②シットイングバレー体験

パラスポーツを体験するためにシットイングバレーをした。男女とも笑顔いっぱい楽しく活動することができた。



（2）あすチャレ！ School 10月13日（水）13：50～15：20

講師 永尾 嘉章（パラリンピアン：車いす陸上）

内容 ①模範演技

ローラーを使った陸上競技用の車いすでのスピード測定

②パラスポーツ体験

生徒同士の車いすスピード対決、バスケット用車いすを使ったリレー

③講演

「可能性に挑戦する勇気」について、自らの体験をもとにお話をさせていただき、最後は、アテネパラリンピックで獲得した銅メダルを見せていただいた。



【主な成果】

- あすチャレ！ Schoolから、講師にお越しいただき、パラリンピックに出場したときのエピソードや、可能性に挑戦する勇気について教えていただいた。また、自らの体験から感じたことや、障がいがあるないに関わらず、目標を持って一生懸命に取り組むことの大切さを学ぶことができた。
- 生徒の感想には、「自分が諦めなければ、できなかったこともできるようになると感じた。」「自分で限界を決めずに、諦めない強い気持ちを持って生活したい」など、目標に向かって諦めずに挑戦していくことの大切さに気付くことができた生徒が多数いた。
- 本校では、この時期に合唱コンクールの練習を行っているが、体験後は、今まで以上に一生懸命に練習に取り組む生徒や、講師から教えていただいた言葉を使って、仲間呼び掛けている場面を見かけるようになった。また、進路や自己の目標について悩んでいる生徒が、前向きな発言をしたり、表情が明るくなったりした。

【課題など】

今後も、あすチャレ！ Schoolのような団体が協力していただければ、生徒にとっては素晴らしい体験になると思う。



講師 ひろ せ 廣瀬 はるか 悠 ・ ひろ せ 廣瀬 じゅん こ 順子

種目等 パラ柔道



【主な経歴・出場記録等】

- 松山市出身（廣瀬悠）、山口県出身（廣瀬順子）
- 2008年北京パラリンピック（廣瀬悠・5位入賞）
- 2016年リオパラリンピック（廣瀬悠）（廣瀬順子・銅メダル）
- 2021年東京パラリンピック（廣瀬悠・7位入賞）（廣瀬順子・5位入賞）

【オリパラ教育実績】

- 2021年度 県立宇和島東高等学校

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（講師の過去の体験やパラリンピックについてなど）



【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 人と違うことや当たり前がそうでないことを気に病まないでいいような、そんな前向きで真っ直ぐな接し方を大切にしていきたい。オリンピック・パラリンピックのテーマになっている「多様性と調和」をさらに人々にとって心地良いと思えるものにしていくためにも、ご夫妻から学んだ、今自分にできることを心掛けていきたい。
(県立宇和島東高等学校生徒)

講師 やま なか ゆ の 山中 柚乃



種目等 陸上（障害物）

【主な経歴・出場記録等】

- 大阪府出身、愛媛銀行所属
- 2021年東京オリンピック出場

【オリパラ教育実績】

- 2021年度 西条市立西条北中学校

【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（講師の学生時代の話やオリンピックについてなど）
※愛媛銀行女子陸上部の監督と一緒に講演をしていただくことも可能。（要相談）



【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 何事にも目標を持って練習に取り組みたいと感想に書く生徒が多くみられた。オリンピックからのメッセージが心に響き、一歩踏み出してみようと勇気をもった生徒が多くみられた。
(西条市立西条北中学校教員)

講師 ^{ま なべ} 真鍋 ^{かず ひと} 和人



種目等 ウェイトリフティング

【主な経歴・出場記録等】

- 新居浜市出身
- 1984年ロサンゼルスオリンピック銅メダル
- 1988年ソウルオリンピック8位入賞

【オリパラ教育実績】

- 2021年度 県立新居浜工業高等学校



【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（講師の体験やオリンピック出場についてなど）

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 自分自身がオリンピックに出ることは難しいけれど、オリンピック選手やオリンピックを目指して頑張っている選手のサポートや応援ができればいいという生徒もいた。

（県立新居浜工業高等学校教員）

講師 ^{い とう} 伊藤 ^{りょう こ} 涼子 ※旧姓：徳野 ^{とくの} 涼子



種目等 ビーチバレーボール

【主な経歴・出場記録等】

- 松山市出身
- 2004年アテネオリンピック出場

【オリパラ教育実績】

- 2020年度 県立八幡浜工業高等学校



【オリパラ教育での主な実施内容】

- 講演（オリンピックについて、高校時代に必要なことなど）

【講演・体験をした児童生徒、教員の感想など】

- 今回、オリンピック・パラリンピック教育推進指定校講演会を終えて多くのことを学んだ。それは学校で学んだことは、将来必ず役に立つということ。講師の先生が、高校生の時に勉強しておけばよかったと言われていたので、私は後悔しないように勉強したい。良い話が聞けて良かった。

（県立八幡浜工業高等学校生徒）

講師 **たぐち のぶ たか**
田口 信教



種目等 **水泳（平泳ぎ）**

【主な経歴・出場記録等】

- 西条市出身
- 1968年メキシコシティーオリンピック（4×100mメドレーリレー・5位入賞）
- 1972年ミュンヘンオリンピック（100m・金メダル、200m・銅メダル）
- 1976年モントリオールオリンピック（4×100mメドレーリレー・8位入賞）

【講師について】

- 現在（2022年1月）は福島県で医療創生大学の理事を務めている。
- 子供のころ、近くの池で練習していたエピソードや、学生時代の練習や普段の生活の心がけ、オリンピックに出場した時のお話などをしていただける。

【オリパラ教育での招聘実績】

- 2019年度 地域ワークショップ：講演

講師 **ひ の かつ ひろ**
日野 克博

役職 **愛媛大学教育学部 副学部長**
愛媛大学教育学部附属中学校 校長

※役職は2022年1月時点

【講師について】

- スポーツや教育に関し幅広い知識があり、県のオリパラ教育にも助言をいただいている。
- これまで、愛媛大学教育学部附属小学校、中学校でもオリパラ教育に関する取組を実施しており、オンラインによるボッチャ交流なども行っている。

【オリパラ教育での招聘実績】

- 2020年度 地域ワークショップ（オンライン）：講演
- 2021年度 地域ワークショップ（オンライン）：講演

講師 **愛媛県プロスポーツ団体**（愛媛F C・愛媛マンドリンパイレーツ・
愛媛オレンジバイキングス・F C今治）

種目等 **サッカー、野球、バスケットボール**

【オリパラ教育での招聘実績】

- 2018年度 愛媛F C（神谷優太）
- 2019年度 愛媛F Cレディース（上野真実）
- 2020年度 愛媛F Cレディース（上野真実）
- 2021年度 愛媛F C（河原和寿：コーチ）
F C今治（オスカル・リントン、松井治輝、武井成豪）



【実践事例】新居浜市立王子幼稚園（2020年度実施）

【実践テーマ】

スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

園児（27名）

【実施方法】

行事（運動会、作品展）

【目標（ねらい）】

- オリンピック・パラリンピックに関する話を聞いたり、運動会や作品展、サッカー選手の話や実技指導などを通して、オリンピック・パラリンピックに興味関心をもつようになる。
- いろいろなスポーツがあることを知り、積極的に体を動かして遊ぶ楽しさ、諦めないで頑張ることの大切さをより感じてほしい。

【取組内容】

（1）事前指導

「オリンピック・パラリンピックって何？」

クイズ形式で、オリンピック・パラリンピックの歴史や開催地、種目などについて知らせる。

保護者には、プリントを配布しオリパラ教育の事業に参加することを周知する。



（2）運動会当日 10月3日（土）午前中

プログラム及び退場門、園児に渡すごほうびのメダルをオリンピック・パラリンピックを意識したものにした。

園児の入場の際は、1964年に行われたオリンピックで使われたファンファーレや行進曲を流し、放送でも知らせた。

プログラムの中に、オリンピック・パラリンピックを意識した種目を取り入れた。



(3) 作品展・バザー 10月30日(金)

陸上競技、体操競技、サッカー、水泳競技の中から自分の製作したいものを選び、年長児は紙粘土、年中児は牛乳パックを使い製作した。

好きな国旗を作り、それを使って2020の文字にしたり全園児の手形でオリンピックのマークにしたりした。



【主な成果】

- 園児はオリンピック・パラリンピックの日本開催について興味関心を持ち、2021年に延期になったが、開催を楽しみにしている。
- 運動会では、入場行進や選手宣誓、退場門、メダル、プログラム、プログラムなどにオリンピック・パラリンピックを意識したものを取り入れた。保護者にも好評で、家でオリンピック・パラリンピックについて話題にのぼることも多くなり、いろいろなスポーツにより興味関心が高まった。
- 作品展では、自分の作りたい競技の動きをネットで見て準備したり、粘土や牛乳パックで創造しながら作ったり飾ったりして選手になった気持ちになり、より興味関心をもった。

【工夫した点】

- クイズ形式の事前指導でオリンピック・パラリンピックについて興味関心をもてるようにした。
- 運動会や作品展ともに、視覚からオリンピック・パラリンピックというものがよくわかるように工夫した。
- 保育の中で、サッカーやリレー、マラソンなど体を動かして遊ぶ楽しさをより味わえるよう、園全体で取り組んだ。



【実践事例】松山市立東中学校（2021年度実施）

【実践テーマ】

スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【対象者】

3年生（82名）

【実施方法】

授業（総合的な学習の時間）

【目標（ねらい）】

パラリンピックで行われている競技や出場している人の生き方を知ることにより、他国の文化を理解し、多様性を尊重する態度を身に付ける。また、学んだことを他に伝え、広めることでインクルーシブな社会（共生社会）の構築を目指す。

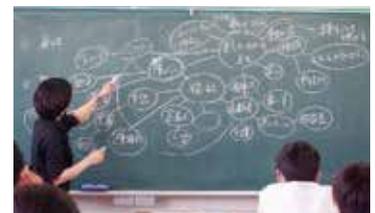
【取組内容】

（1）事前学習

①インクルーシブな社会を考える

「福祉」＝「みんながしあわせ」をテーマに総合的な学習の時間の中で様々な視点から共生社会を考える。

- ・聴覚障がいの視点から
- ・視覚障がいの視点から
- ・身体障がい（パラスポーツ）の視点から



②パラリンピックについて学ぶ

「I'm POSSIBLE」のスライドをもとに、クイズ形式で、パラリンピックの意義、パラスポーツの種目や使用されている道具について学習した。



③モザンビークについて学ぶ

2020東京パラリンピックに出場されたモザンビーク陸上選手団を招いて交流会を行うためにモザンビークの歴史や地理、文化を学習した。

(2) パラリンピアンから学ぼう 9月8日(水) 8:45～10:15

講師 2020東京パラリンピック出場のモザンビーク陸上選手
エドミルサ・ゴベルノ (T13 (視覚障がい) 女子100m、400m)
イラーリオ・シャベラ (T13 (視覚障がい) 男子400m、走幅跳)
ルイス・ロドリゲス (モザンビーク陸上選手団団長)

内容 ①講演会

パラリンピックに出場しての感想、パラ陸上を始めたきっかけ、今後の目標など

②実演

ウォーミングアップの行い方、50m走チャレンジ



【主な成果】

モザンビークの選手たちの前向きな明るい気持ちに触れたり、目の前でパラリンピック選手の走りを見たりすることで、障がい者に対して自分たちが知らぬ間に抱いていた「〇〇してあげないといけない」といった先入観に気づけた様子であった。今回の交流会を行うことで、自分たちが考えていた「共生社会」を考え直すよい機会となった。

〈生徒の感想〉

- 障がいがあってもそれを全く負い目を感じてなくて、自分に自信を持っているような印象を受けた。また、周囲の人たちへの感謝も感じられたので、アスリートとしての強さだけでなく、人としてもすごいと思った。
- パラリンピック選手というので僕らとは全然違う人だと思っていたが、言葉や肌の色が違うだけだった。そして、僕よりも足が速く予想外だった。授業でも学んだが、障がい者というだけで何も変わらないことを改めて感じる事ができた。

【課題など】

他教科との関連を図り、年間計画に位置付けると、継続的、横断的指導が可能となり、より効果が期待できる。



【実践事例】 県立今治北高等学校 (2021年度実施)

【実践テーマ】

スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

【対象者】

- ・第3学年の希望者（25名）
- ※国際交流に興味のある生徒

【実施方法】

特別活動

【目標（ねらい）】

- ・今治市の姉妹都市でもあるパナマ共和国について学び、異文化理解や発展途上国の現状を知ること
で、生徒がより広い視野を持つことを期待する。
- ・国際的視野を広げ、国際交流や支援の意義を考え、地域において自分の役割を見出すことができる
ようにする。

【取組内容】

(1) Day1 7月28日（水）

「ホストタウンについて」

講師：松下博幸（元JICA海外協力隊員）

大石紗己（JICA四国愛媛県国際協力推進員）

今治市がホストタウンとなっているパナマ共和国について、講師から学んだ。



(2) Day 2 7月29日（木）

「FC今治の選手を迎えて」

講師：オスカル・リントン

パナマ共和国出身、FC今治の選手からパナマ共和国や日本の文化との違いについて学んだ。また、質疑応答を通して交流することができた。



(3) Day 3 8月4日（水）

「FC今治の選手との交流を通して、地域創生と多文化共生を考える」

講師：松井治輝・武井成豪

FC今治の選手とともに、地域創生やSDGsについて学んだ。その後、グループに分かれ、私たちにできる取組について考えた。



(4) Day 4 8月24日 (火)

「自分たちで考案した交流イベントを発表」

※オンラインでの実施

- Day 3で考案した取組についてグループごとに発表した。



【主な成果】

- 事後アンケートでは、講座参加満足度5点満点中4.9点と高評価であり、4日間の講座を通して異文化理解や国際交流について学べた。
- 外国人との交流は難しいと感じていた生徒がほとんどであったが、実際に交流することで、自分の努力と勇気次第で特別ではないと気付いた生徒が多かった。
- オリンピック・パラリンピックを通して、今治市を見つめ直すことができ、街の魅力を再発見できたと同時に課題も見えてきた。
- F C今治やJ I C A四国と活動できたことを貴重な経験であったと感じている生徒が多く、なかには進路について考えるきっかけになった生徒もいた。

【工夫した点】

- Day 2、Day3では、今治市をホームとするF C今治と連携し、本事業を実施することができた。選手とともに考案したイベント企画は、今後実現できるよう話し合いを重ねていきたい。
- コロナ禍ということもあり、校外活動等ができていない学年であったので、J I C A四国やF C今治の選手・スタッフなど多くの方々に関わりを持てたことは生徒たちにとっても貴重な機会であった。

【課題など】

- 今回の取組を通して、学校単位だけの継続は困難であると感じた。県や市町村、地元企業などと協力できる体制が必要である。
- このような取組が今後も継続するためには、学校全体で取り組むことが大切である。今回は一部の教員・スタッフで計画・準備を進めたが、今後は計画段階から学年や校務分掌担当と連携をとっておく必要がある。

